

地域に顔の見える運動・市民と共に創り上げる運動を目指して

盛り上がった「第7回食と環境まつり」

地域住民・組合員・家族・退職者等々1,000人が参加

「考えよう！身近な食と環境を」をテーマに

不安定な気候が続く中で、稀にみる好天に恵まれた10月15日（土）、函館市駅近くにあるシーポートプラザ前広場において「第7回食と環境まつり」が開催されました。

食の安心・安全を見つめ、地球規模の環境問題を市民と共に共有化し、身近な課題から考えていくことを基本に据え、加えて、緑豊かな道南の自然を守り、豊富な食材の地産地消の拡大と労・農提携の推進を主たる目的に始められたイベントも今年で7回目を迎え、従前にも増して充実した内容と出店数の増加で盛大に開催されました。

8月に実行委員会を立ち上げてから2ヶ月、実行委員会・企画委員会を基軸に各ブース（産別・単組・地区連合・関係団体による出店）が積み重ねて来た準備努力が問われる当日、早朝から快晴に恵まれ、時間と共に気温も上昇する会場には各出店関係者、



＜オープニングは勇壮な和太鼓＞

実行委員、事務局等おおよそ60名が集まり、開催へ向けた準備がスタート。

27張りのテントの設営、来場者を迎える会場設営、音響設備の設置、会場周辺への幟や看板取付など、おおよそ1時間半をかけて集中的に準備作業を終え、各ブースの作業へと移行。

11時の開催時間前には全ての準備が整い、既に会場に集まった多くの市民、組合員・家族・退職者もまだかまだかと待つ中で、あとは司会者の号令を待つのみ。

オープニングは「函館巴太鼓振興会」による和太鼓演奏。会場内に勇壮に鳴り響く鼓音の後、司会進行役の実行委員会・八木橋事務局長の紹介で登壇した残間実行委員長（食・みどり・水を守る道南地区労農市民会議議長、連合渡島地協副事務局長）は、「年々規模・内容も拡大され、市民の中へと定着しつつある。素晴らしき道南を十分に満喫し、身近な課題について一緒に考える場にしたい」と挨拶が行なわれ、来賓として連合渡島地協・荒木会長、衆議院議員・逢坂誠二氏から祝辞が述べられた後、八木橋事務局長の「3・2・1・スタート！」の号令で一斉に各ブースの販売が開始されました。

途切れることの無い来場者に各ブース大奮闘

好天の影響と積極的なPR強化が功を奏したのか、スタート時から賑わいを見せていた会場内では、お目当てのブースに向かう人たちが溢れ、開始と同時に長蛇の列が出来て「てんてこ舞い」状態になったり、どこを先に行くか迷っていたり、子供にせがまれて急いで

ブースに向かう親子の姿が有ったりと、活みなぎる雰囲気に満ち溢れていた。

やはり人気なのが、昨今の全国的な天候不良で野菜高騰の影響を受けた「朝取り野菜の格安販売」と「野菜の詰め放題」や八雲産ポークを使った「焼き鳥」、屋台の定番でもある「焼きそば」・「タコ焼き」、「牡蠣の炭火焼」等々に人が集まり、暫し行列が途切れない風景も見受けられました。



また、特別参加の「留萌タコ飯」（留萌地協出店、後志・胆振地協支援）は、前日から仕込みを行い、当日早朝から準備を行なった苦勞が報われ、販売予定数を1時間で「完売」する人気となっていました。参加者からは「エッ！もう無いの？」「追加は？」等々の声上がる一方で、食した人からは「旨い！」「タコは柔いし、味付けが抜群！！」と絶賛の声が上がっていたのが印象的でした。

＜昔懐かしい手作りラジオも人気＞

会場は入れ代わり立ち代わりの来場者で途切れることなく常に賑わいが引き続き、過去最大とも言える延べ1,000人近い入場者が来場。家族連れや友人・知人同士、職場の仲間や近所の住人、更には観光客等が買い求める結果に終了時間前に「完売」するブースが続出。

うれしい悲鳴が飛び交う反面、どうしたらよいかとの困惑も入り混じる状態にもなっていました。

環境ブースもゲームコーナーも大盛況

また、環境ブースにおいても同様に、「木の葉を使った万華鏡作り」「間伐材使用の木工教室」「昔懐かしいトランジスタラジオ制作」「巨大木製オセロゲーム」「環境パネル展」等においても来場者が途切れることなく、「子供向けゲームコーナー」では輪投げやストラックアウトビンゴゲームに幼児から小学生が集まり、成長するわが子の一挙手一投足に目を細めたり、手を叩いたり終始微笑ましい光景が描かれていました。ゲームの景品は柄杓（ひしゃく）によるお菓子のすくい上げ方式。

数十種類のお菓子の入ったケースからゲームの結果による回数でお菓子をすくい上げる方法で、お目当てのお菓子を狙ったり、思うようにできなくてグズツたりと笑いと和やかな雰囲気に溢れ返っていました。



閉店間近の14時には、殆どが「完売」状態で、売るものもなく後始末に入るブースが続出。

＜例年好評の野菜の詰め放題＞

新米抽選会の前に行われた実行委員会・村上副実行委員長（道南地区農民連盟委員長）

は「先の台風の影響による農作物被害は大きなものであったが、各農家の努力で徐々に回復している。食と環境まつりを通じてもっと道南食材の素晴らしさを理解してほしい。今後更にも更に拡大して行く方向に向けて頑張りたい」と閉会の挨拶を行い、参加者へ今後も変わらぬ協力を要請しました。

抽選会の一喜一憂は例年通り

近隣3農協の協力の下で行われた抽選会は、今年の「ふっくりんこ」「ゆめびりか」が当たるとあって、抽選券を手にした参加者の顔は真剣そのもの。当選番号が呼ばれるたびに番号を確認し、いち早く受け取りに来る人、次に期待する人、落胆をする人等々様々な模様が会場内に描き出されていました。

PRを兼ねた450g（3合）が50本、2kg袋が20本 5kg袋が15本と景品の数も豊富に準備をしたつもりでしたが、抽選券を持っている人の数はそれをはるかに超えており、進むにつれて会場のあちらこちらでは歓声とため息が入り混じり、最後の1本では悔しがると声が会場内を包み込んでいました。

組織内の連携強化と地域間のきずなの強化を求めて

2ヶ月間にわたる準備期間を経て、最高の好天下で、過去最大の参加者で大成功をおさめた「第7回食と環境まつり」は、実行委員と各ブース担当者全員でテントをたたみ、会場者用会場を整理し、ゴミの清掃を行って終了を迎えることとなりました。最後に挨拶に立った残間実行委員長は「準備を担ってきた実行委員や各ブースの力で成功裏に終えることができた。来年の更なる前進に向けてより一層努力を積み重ねていきたい。」と感謝の意を伝え、すべての作業を終えることとなりました。



<立ち込める煙が食欲を掻き立てる> 今回の「食と環境まつり」に参加した各産別・単組・地区連合、協力団体のブースにおいては、従来の役員中心の運動から多くの若い組合員、会員が積極的に動き回る姿が目立ち、参加した多くの市民に気軽に声を掛け合う姿は、食と環境まつりの運動が幅広くなっていることを物語っており、地域住民と一体感の持ち合える運動の重要性を再認識し、若年労働者の運動参加の入り口づくりに結びついてきていることに確信を持ったものでもありました。

まだまだ多くの改良点・反省点があるとは思いますが、お互いの積極的な総括を行いつつ、一步一步確実に前進を図っていかなければならない運動ではないかと再確認しているところでもあります。